

2022年  
ご降誕号



カトリック笹丘教会ニュース

No.0106

# こみち



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7・14)



## 戦時下でのクリスマス



主任司祭

ペトロ・フランシスコ遠山満

主の御降誕のお喜び申し上げます。

昨年と一昨年は、コロナ下で、今年は、それに加えて、戦時下で、クリスマスを迎える事となりました。

先日、ウクライナの人々の状況が、テレビに映し出されていました。水道の水が出ないので、凍てつく寒さの中、多くの人々が、井戸に列を作って並び、水を確保していました。ガスがないので、薪を集め、それを分配していました。電気がないので、発電機を、皆が買い求めていました。大変な状況であっても、皆が落ち着いて行動していることに、驚きを禁じ得ませんでした。

彼らの生活を見ながら、私は、どのような形で、彼らに連帯していけば良いのだろうかと考えてしまいました。水にもガスにも電気にも、恵まれている私が、どのようにして、彼らと連帯していけば良いのかと。

ロシアからの攻撃にさらされる時、彼らが、シェルターに避難している、その状況も、時々放映されます。彼らは、シェルターを持っていて、危険な時、そこに避難します。シェルターは、一時的ではあっても、彼らに、しばしの安堵感を与えてくれるのではないかと思います。その状況は、私たちと似ているのではないかと思います。私たちも、信仰生活を送る上で、様々な攻撃にさらされます。いわれのない非難や批判、中傷、誤解、あるいは、口では表現しなくても、それとわかる鋭いまなざしなどです。そのような状況下にある時、私たちにも、シェルターが必要です。一時的ではあっても、逃れる場所、空間が必要です。

私たちには、このシェルターが与えられています。それは、聖櫃の中にいらっしゃるイエス様です。詩編作者は、そのことを次のように表現しています。「主よ、私の力よ、私はあなたを慕う。主は私の岩、砦、逃げ場、私の神、大岩、避けどころ、私の盾、救いの角、砦の塔。ほむべき方、主を私は呼び求め、敵から救われる」(18・2~4)。

イエス様が誕生された時、マリア様とヨゼフ様は、イエス様を寝かせる場所を探されたことと思います。幼いイエス様のためのシェルターを。けれども、そのシェルターをマリア様とヨゼフ様に提供されたのは、イエス様だったのではないのでしょうか。幼いイエス様のために、心を砕いておられた二人に、逃げ場を与えてくださったのは幼いイエス様だったのでないのでしょうか。

私たちも、信仰生活を送る中で、戦時下にいるような気がする事もあると思います。そのような時、イエス様を逃げ場としましょう。イエス様の下で暖を取り、そこでいただいた温かさを、周囲の人々と分かち合っていくことができますように、恵みを願いましょう。



## 堅信式 9月25日(日) 受堅おめでとうございます!!



蒸し暑さから一転して、秋のさわやかな空気が漂う中、アベイヤ司教様をお迎えして、主日のミサと堅信式が執り行われました。10名が堅信の秘跡を受けました。信者が見守る中、受堅者は「洗礼の約束の更新」や「塗油」などに参加しました。



エリザベト(ポルトガル)

「さあ!完全な信者になるぞ!」と意気込み、堅信式を迎えた私でしたが、アベイヤ司教様のお説教にハッとさせられました。それは「神様は、あなたが死んだ時にキリスト教信徒だったかとはお尋ねになりません。あなたが小さき者に何をしてあげられたかを聞かれるでしょう」という言葉でした。キリスト教信徒になることが重要ではなく、他者をどう愛するかが目的で、堅信を受けた私はここからがスタートなのだと改めて考えさせられました。また信者でない主人にも聞かせたい素晴らしいお話だと思いました。

勉強会を終え堅信式も無事終わって、どこか解放的な空気も感じていましたが、「今日が卒業式ではないですよ」と笑いながらおっしゃったアベイヤ司教様の顔が印象深かったです。これからまた新しく、一步一步教会の皆さんと共に進んでいきたいです。

マリア・レジナ

受洗して2年が経ち、この度無事に堅信の秘跡を受けることができ大変嬉しく思います。これまでに私を支えてくださった皆さんに感謝します。また堅信の勉強会で受堅者の皆さんと一緒に学んだことは貴重な経験となりました。ありがとうございました。これから教会の一員として皆さんと共に信仰の道を歩んでいきたいと思ひます。よろしくお祈りします。

モニカ

2年前の8月15日に洗礼を受け今回堅信の秘跡を受けることになりました。ミサを司式してくださった司教様、勉強会など日頃から支えてくださっている神父様、そして祝福の言葉をかけてくださったたくさんの方に感謝しています。堅信名は、長崎の親戚からいただき「モニカ」にしました。これまで以上に教会に通い、信仰を深めていきたいです。

ペトロ

僕は、今回の堅信を通じて、たくさんの方のことを学んで、改めて教会について知ることができました。また、ひとりのカトリック信者として生きていくためのことを神父様からたくさん教えていただきました。これからも教会のためにできることをどんどん頑張って、人のためなら何でもし、妹たちの模範にもなれるようにしていきたいです。

ヨゼフィーナ

無事、堅信の秘跡を受けられてよかったです。感謝しています。

マリア・アスンパタ

堅信のお恵みに与れて、嬉しかったです。これからは、もっと神様に心を向けていきたいと思いました。遠山神父様、勉強会でいろいろ教えてくださって、ありがとうございます。

カタリナ

堅信の恵みを受け、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。教会の中で大人になった私たちがしっかりと自覚をもって行動できるよう努力していきます。遠山神父様の暖かいご指導に御礼申し上げます。神に感謝

ペトロ

司教様からお恵みをもらいました。この気持ちを忘れずに、これからもイエス様の道を歩こうと思います。無事に堅信の日が来てよかったです。

ペトロ

今までに堅信のために勉強したことを無駄にしないように頑張りたいです。神様のことをもっと知りたいです。信仰を強めていきたいです。



マリア

今までに勉強したことを忘れないようにこれからも頑張りたいです。なんだか不思議な気持ちです。

本日は子どもたちのために、このような立派な堅信式を行っていただきありがとうございました。ヨゼフ・アベイヤ司教様、遠山神父様をはじめ、子どもたちのために本日までお祈りしていただきました笹丘教会の信徒の皆さまにも心よりお礼申し上げます。信仰の光を消すことなく次の代にも引き継いでもらいたいです。 受堅者保護者 ペトロ



## 役員会だより



### ◎定例役員会の開催

9月17日(土)、10月15日(土)、11月26日(土)

年間活動計画に沿った諸行事の実施内容、新しいミサの式次第のための準備等について話し合いました。新年会は残念ながら今年度も中止といたします。来年度こそは、一緒に食事をしながら互いの交わりを深める機会を設けられることを願います。

### ◎委員長会の開催予定

第二回の委員長会(来年度の活動計画および予算の審議)は、1月21日(土)17時からの予定です。(当初12月17日を予定していましたが、黙想会と重なることから延期しました)。

委員会の制度は規約制定前の「一人一役」の取り組みが元になっています。まだどの委員会にも所属しておられない方は、いずれかの委員会への参加をぜひご検討ください。

禾  
女  
員  
会

**総務**(設備管理、環境保全、営繕) **宣教司牧**(教会学校、青年会、信徒養成、図書、福岡教区への協力及び他小教区との交流) **典礼**(ミサ、祭壇奉仕、結婚式、葬儀、初金奉仕、笹丘ファミリア合唱団) **広報**(お知らせ、教会ニュース、掲示板、ホームページ) **福祉**(アンナ・ヨアキム、信徒福祉、対外支援) **バザー・行事**(バザー、手芸の会、パーティー)

### ◎来年度の役員選出に向けて

現役員は、二年間の任期が残り少なくなってまいりました。来年5月の総会において、新役員と交代することになります。2月になりましたら、A~Dグループ、男女各一名の役員を選出するための、グループごとの話し合いを行います。皆さまどうぞご参加ください。

### ◎福岡地区信徒使徒職協議会の活動について

福岡地区信徒使徒職協議会は、福岡地区13小教区の代表者と各使徒職団体の代表者からなる団体で、年4回の代表者会議に、小教区の代表として信者会会長の辻部が出席しています。10月10日(スポーツの日)に実施した「神学生と集うソフトボール大会」には、笹丘からも12名が選手およびサポートとして参加し、神学生との交流を楽しみました。



# おめでとうございます！！助祭叙階式 東京カトリック神学院 聖堂にて

## マキシミリアノ・マリア・コルベ桑原篤史新助祭様

2022年9月23日(金・祝) 司式 タルシチオ菊池 功 大司教様



3名の新助祭様 誕生



菊池功大司教様と  
桑原篤史新助祭様



アウグスチノ修道会神父様方とともに

アウグスチノ修道会の司祭としてお迎えできる日はもう間近！！  
心よりお祈りいたします！！

### 松尾太神父様 日本アウグスチノ修道会 代表を務める

ご活躍をお祈りいたします

Q. 日本アウグスチノ修道会の代表ということですが、正式役職名は？任期は？

A. 「日本の殉教者地区 地区長」といいます。任期は 4 年です。ヴィラノヴァ管区の管区長より任命されました。貴重な体験をさせていただいています。このような未熟者に任せてくださった神様と兄弟の皆さんはすごいと思います。アウグスチノ会が皆さんにますますよく仕えるものとなれますようにと、ただただ祈っています。10/7~22 まで開催された日本地区のネットでの会議も皆さんの助けにより何とか無事に終えました。聖霊はいつも働いてくださると実感しています。

Q. 『心のともしび』によく書かれている小学生は、松尾神父様にとってどのような存在ですか？

A. 子どもたちを通して、神さまいつも新たに出会います。子どもたちにとって、神さまはいつも身近なので、宗教の授業ではいつも神さまの愛とお恵みの発見があります。神さまはいつも一緒だということを、子どもたちと一緒に学んでいます。

Q. 今までに訪れた中で一番印象深いところは？

A. シドニーです。修練と、勉強もさせていただいて、苦手な英語と格闘しながら、国や文化を越えてともに歩む兄弟たちと出会い、聖アウグスチノや修道会の聖人についても、たくさん学ばせていただきました。しかも、大好きな海が修道院の近くでした。感謝しきれません。



ローマにて

左から  
インド分管区 Wilson 神父様、ヴィラノヴァ管区所属の副総長 Joe Farrel 神父様、日本殉教者地区地区長松尾太神父様

ヨハネ松尾太司祭 笹丘小教区出身  
2017年4月22日城山教会にて司祭叙階式  
現在は、城山教会助任司祭

典礼委員会より

## 香部屋係はじめました



「香部屋のお手伝いが足りない！」ということで急きょ7月31日(日)、勉強会が開かれました。遠山神父様から、カリスやパテナといったミサ聖祭祭具の説明、香部屋のどこに何があるのかを教えていただき、ベテランの侍者から詳しいお手伝いの内容を学びました。

参加者からは「とても勉強になった。」「香部屋や内陣は自分から遠い場所だと思っていたけれど、これから心をこめて奉仕したい。」といった声が聞かれました。

現在、11名が4グループに分かれて週ごとに担当しています。主な仕事内容は、神父様がお忙しい日曜10時ミサ前に祭具の確認、ミサ後に祭具の片付けと香部屋の掃除です。待降節と四旬節の前には香部屋のワックスがけ等も行います。ご興味のある方、是非ご一緒に奉仕しましょう！（文責：笹栗幸子）

最大の課題は『ろうそくのフィルム巻き』。ろうが垂れないようにしっかりと巻きます。



### 典礼委員長

たくさんの方が香部屋の奉仕に参加してくださり感謝しています。信者同士の助け合いは笹丘教会の素晴らしい伝統ですね。

典礼委員会では他にも、ミサの司会、先唱、オルガン伴奏、葬儀や結婚式のお手伝いをしてくださる方も求めています。ご協力お願いいたします。





## “新しいミサ式次第” 発進 ミサ進行、信徒一同 1年生！！



日本カトリック典礼委員会は、1988年準備期間から様々な状況を受け入れながら、原本聖書ラテン語により近い表現に、ミサ式次第等の一部改訂を完成させました。私たちは、2022年待降節から始まる新しい典礼文によるミサに備えて、10月中に3回、ミサ終了後、神学院の嘉松神父様による新しいミサ式次第変更点の解説のビデオ視聴会を行いました。後日、ミサ後に新しいミサ曲の練習をしました。

新しいミサ式次第の変更のビデオ視聴会の様子



映像に映る嘉松神父様の解説は、実際この場にいるかのようで、わかりやすかったです。

司祭:主は皆さんとともに  
信者:またあなたとともに

全能の神と**兄弟姉妹**の皆さんに告白  
します。……………などなど



後半は、山頭神学生の指導のもと新しいミサ曲の歌の練習をしました。



## 神学院祭 2022 「私たちの歩みを平和に導く」 11月3日(木)



3年ぶりに通常開催が実現しました。まぶしい快晴。神学院前では車の誘導が行われており、その中に辻部会長の姿が見られました。聖堂前の庭では、ミサの準備が整っていました。定刻の9時半、実行委員長の子山頭神学生の案内により中村倫明大司教様の司式で野外ミサが開催されました。日差しが強く、「こんな中で私の話を聴いてますます気分が悪くなつてはいけません…」と大司教様の冗談に一同気持ちと和みました。心が洗われる素晴らしい時間でした。



中村大司教様のお話には心を打たれました。ある神学生のための呼びかけもありました。



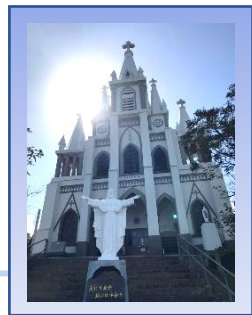
山頭実行委員長

「何でも屋」の山頭神学生が頑張っていました



カートツアー—  
恐竜に扮した神学生が構内を案内しました





私が笹丘教会に転入して、早いもので1年が経とうとしています。  
 昨年11月に移って来て、川原さんから大人の教会学校へのお誘いを  
 いただきました。参加するにあたり、「分かち合いのルール」を学びました。

- ① 自分がどう感じたか、一人称単数で語る。
- ② 今のありのままの自分が感じている心の動きや気づきを分かち合う。
- ③ 他人が分かち合っているときは、ひたすら聞く。口を挟んだり好奇心で質問したりしない。
- ④ 自分の内面をどこまで分かち合うかは自由で、パスしてもよい。
- ⑤ メンバー全員が分かち合う。
- ⑥ 分かち合われたことは、その場限りのものとし、メンバー以外には話さない。

大人の教会学校では、以上のルールを大切に、毎回テーマに沿って分かち合うことで

- ・「今ここで」自分が感じていることを表現できること、自分のより深いレベルに気づく
- ・話す方も聞く方も、お互いを鏡として自分の価値観や、自分が何を大切にしているのかが明らかになってくる
- ・心を込めて相手の話を聴くことで、相手の心の動きに敏感になり、共感できる人になる
- ・人との交わりの中で、互いに生かされていることがわかる

以上の“分かち合いの実り”が得られます。

私が最も心に残っている‘テーマ’についてここに書いておきます。

ある回で神言修道会西経一神父様が、神様の愛について語っておられるのを聴きました。

「神様が私たちに注ぐ愛は赤ちゃんが生まれた時、みんなから抱きあげられて『生まれてきてくれて本当にありがとう!』と祝福しているのと同じ。見返りなど一切求めない無償の愛、これなんですよ!!」

私はこれを聴いて、本当に心にぐっとくるものがありました。とにかく、あなたの存在に感謝。生まれてきてくれてありがとう!!

日々の生活の中で、愛の実践、福音を述べ伝える、謙虚に親切な行いをするというのは難しいです。私は大人の教会学校に参加して、分かち合いの実りを深めていくことで、『どれだけ愛を込めて他人、隣人、あまり仲良くない人たちに接したか』を言える自分でありたいと思っています。

皆さん、機会があれば、大人の教会学校を覗いてみられませんか？



大人の教会学校の様子

### 23班 ヨセフ

右上の教会の写真は長崎伊王島の馬込教会  
 親の介護のため長崎に帰省した際に訪れました

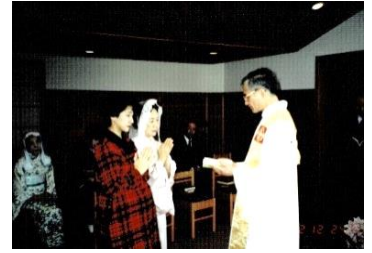


## 信仰のルーツ

### 30年目のクリスマス



「あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。」(ルカ 1:44)  
マリアがエリザベトを訪ねるその場面が朗読された瞬間、臨月を迎えた私の胎内で、わが息子も手足を大きく動かし喜びおどるのを体感した。30年前のクリスマス、私の受洗の日のできごとである。ご縁をいただき、当時泰星学園(今の上智福岡)におられた外川直見神父様のもとで聖書を学んでいたため、洗礼式もイエズス会修道院の聖堂で行われた。笹丘教会女性の会の皆様、家族や友人、雙葉の恩師の先生方に見守られ、式後はお祝いの茶話会も催していただいた。初聖体はその晩、笹丘教会の旧聖堂にて、ご降誕ミサの中で赤倉稔神父様よりいただいた。私にとって、生涯忘れられないクリスマスの日となった。



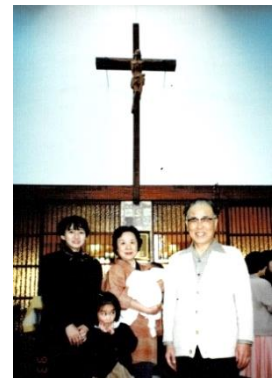
思い返せば少女時代、雙葉の中高で6年間を過ごし、宗教の授業はあったものの特に興味を持つこともなく学校生活を送っていた。しかし神様はそんな私にさえ、気づかぬうちに確かに信仰の種をまいてくださっていたに違いない。その後国立大に進んだ私は、朝夕のお祈りやシスターのお話のない日々はどこか物足りなさを感じたものだ。卒業後、大学で働いていた私に母校に教師として来ないかと声をかけてくださったのが、大六野勤先生であった。当時教員向けに浄水通教会で粟本神父様による聖研が行われていて、迷わず参加。そこで尾崎トミ子先生との出会いもいただいた。教員をしたのは短い期間だったが、私にとってはこの頃がターニングポイントだったと思う。結婚後は大六野先生にご相談し、神父様方にもお願いして笹丘教会に通わせていただきながら自分の気持ちと向き合い、その後意を決して未婚者だった夫や夫の両親を説得して洗礼を受ける運びとなり、外川神父様とのお勉強に導かれたのであった。代母はもちろん大六野先生の奥様をお願いした。

あの日から30年。思えばいつも神様のまなざしがそそがれていたように思う。息子たちと通った笹丘カトリック幼稚園。夫の留学が決まってからはドワイヤ神父様に夫婦で英会話を習ったり、留学先でもバイブルクラスに導かれたり。母校の同窓生信者の会でのイエズス会塩谷恵策神父様との出会いとその後の学び。息子の泰星入学を機に始まった母の会聖研(息子たちが卒業しても母たちは留年、神父様方数名に受け継がれた)はつい最近まで続いていた。また日本語教師をしていた私は、大神学校で外国人神学生の日本語学習のお手伝いをする機会もいただき、彼らからはむしろ私の方が多くのことを学んだ。

気づけば私の周囲でも変化が起きていた。末息子が幼児洗礼に与かり、続いて姪、義姉、実姉、姪の息子たちが笹丘の信者となり、あの時説得した義母と義弟もプロテスタントではあるが受洗して信仰を得た。

余談だが、胎内で喜びおどった次男(右の写真では大六野お母様に抱かれている)は来月30歳。今年の夏息子が生まれ、自身が父親になった。

これまで導き支えてくださった神様とすべての方に心から感謝したい。



4班 幼きイエスのテレジア



11 班ジョセフ

1964年(昭和39年)4月、アメリカのニュージャージー州で生まれ、それから1ヶ月もたたないうちに同州ユニオン・シティ町にある聖アウグスティヌス教会(St. Augustine Catholic Church)で洗礼を受けた。洗礼証明書を見てみると、代父母は母方の祖父母だったと確認できた。

同じ聖アウグスティヌス教会での「日曜学校」にずっと通い、平日の学校と同じように思い出深い場所である。特に記憶に残っているのは、日曜学校が終わってから両親が買ってくれた菓子パンの美味しさである。せっかくの「お休みであるはず」の日曜日でも頑張って勉強したご褒美かな？

同教会はニューヨーク市の近くで、ヒスパニック系(スペイン語を母国語とする中南米からの移民たちのこと)の信者が今も昔も多い。母方の家族がイタリアからの移民だった私と、中南米から移民してきたヒスパニック系アメリカ人と共通するところが多く(カトリック教の「価値観」や「生き方」のほか、家族中心の生活ぶりなど)、友だちがたくさんいた。初聖体拝領もこの教会で受けた。その後、別の地域に移住して、洗礼を受けた教会から離れた。

先月、アメリカ里帰り中、48年ぶりに訪れた。教会の外見はほぼ変わらず懐かしかった。中に入ると、記憶にあるイメージよりも小さく見えたが、それ以外は昔とほとんど変わらず安心感に包まれた。祭壇の裏にあるイエス様やマリア様、ヨゼフ様の像はそれぞれ覚えている通りで、見上げると一気に半世紀分の年月が消えて心の中で再び子どもになった。その瞬間、「私の人生は、カトリックという一つの変わりのない筋道がある」と強く感じた。



洗礼を受けた教会内で

ニュージャージー州

福岡空港 → 台北  
 約2時間 待機5時間  
 16時間 → ニューヨーク



アメリカ合衆国



懐かしの洗礼盤



祭壇前にて



## 今年の学び

9月中旬から2ヶ月半続いた「音訳(朗読)ボランティア養成講座」を11月末に終えた。きっかけは読売新聞の小さな募集記事だった。コロナで人と喋ることや声を出すことも少なくなり「このままだと喉が衰えて将来誤嚥性肺炎になってしまう!朗読とかいいんじゃない?」という、どちらかという個人的利己的な動機で応募した私だったが、想像以上に有意義な学びをさせていただいたと思っている。

朗読というと絵本や小説を読むというイメージしかなかったけれど、この講座は読む対象が視覚障害者なので「音訳」と明示してある。だから、講座の内容は、元アナウンサーの先生から習う発声法やアクセントなどの朗読の基本だけでなく、中途失明の方が自分の体験や今の生活に実際に必要な支援について話されたり、盲導犬の知識について丸2時間講義があったり多岐にわたるものだった。面白かったのが、映画の「場面音訳」という経験だった。視覚障害の方は声は聞こえるわけだから、映画のセリフのない部分の情景をアテレコしていくというものだ。映画の映像を見ながらマイクを握り「谷川の石にぶつかる急流」「山寺に向かう石段」「卒塔婆に向かい手を合わせる野枝」・・・というように場面に合わせてナレーションを吹き込んでゆく作業は緊張もするけれど新鮮で楽しいものだった。

ボランティアセンターには音訳関係の活動をしているグループが17もあるそうだ。それぞれに特色があり、上記の映画の場面音訳のほかにも、小説を主にやるもの、市の広報紙、区議会報や新聞を読むもの、子供対象にCD制作をしているもの、お料理のレシピ紹介をメインとしているもの、生協のカatalogの商品と申し込み番号を毎週全て(膨大な量にびっくり!)吹き込むもの、などなど。「受講後は自分の興味のあるところにてぜひ見学に行かれて活動をしてください」と主催者の方が閉講式で言われたので、おいおい幾つか覗いてみたいと思っている。

音訳は声の良し悪しはあまり関係なくて「きちんと相手に伝えたいことが伝わること」「普段の会話のように話すように読む」が大切と講師の方に繰り返し言われた。つまり、日常生活で普段からちゃんと声に出して相手に伝えられているかその姿勢が問われると。会話なき同居人と化してしまっている主人のことを思い浮かべ、深く反省した私であった。



最後にひとつ、滑舌の訓練で習った早口言葉をご紹介します

“玉鷲(たまわし)が若隆景(わかたかかげ)の肩たたく”

11班 ソフィア



